

授業科目名	映像メディア論	担当教員	門林 岳史
必修の区分	選択		
単位数	1 単位		
授業の方法	講義		
開講年次	2 年第 4 クォーター		
講義内容	<p>19 世紀に登場した映像メディアは 20 世紀を通じて社会に浸透し、現代社会のあらゆる局面において重要な役割を担っている。本講義では、映像メディアの歴史を概観するとともに、映像がますます日常的なものになった現代社会の諸相について考察する。また、映像を用いた多様な芸術表現についてもあわせて講義する。とりわけ授業の後半では、東日本大震災以降の映像メディアの状況と、そこから生まれた表現について、重点的に講義する予定である。</p> <p>なお、授業は基本的に講義によって進めるが、授業中のグループワークや提出されたミニツッペーパーへの応答などにより双方向的な授業形態を部分的に取り入れる。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会における映像メディアの重要性を理解する。</li> <li>・多様な芸術表現における映像の役割を理解する。</li> </ul>		
授業計画	<p>第 1～3 回 現代社会と映像メディア (1) — ネット動画とプラットフォーム文化</p> <p>第 4～6 回 現代社会と映像メディア (2) — リアリティ TV とモキュメンタリー</p> <p>第 7～9 回 東日本大震災と映像メディア (1) — せんだいメディアテーク「3 がつ 11 にちをわすれないためにセンター」をめぐって</p> <p>第 10～12 回 東日本大震災と映像メディア (2) — 震災以降の表現と文化</p>		
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中に指示する参考文献を読解する。</li> <li>・授業中に指示する映像資料を視聴する。</li> <li>・授業で学んだ内容を踏まえてレポートを提出する。</li> </ul>		
テキスト	特に指定せず、適宜プリントを配布する。		
参考文献	授業中に指示する。		
成績評価の基準	授業ごとのミニツッペーパー (30%程度)、期末レポート (70%) により総合的に評価する。レポート評価にあたっては、講義内容を的確に理解し、関連する事例などに言及しつつ、自分の意見をまとめることを重視する。		
履修上の注意 履修要件	特になし。		
実践的教育	該当しない。		

備考欄	履修者が定員を超過した場合、抽選を行う。
-----	----------------------